

飛騨高山における観光客の自動車利用の実態

福井工業大学 工学部 正会員 ○和田 章仁
いであ 株式会社 正会員 片柳 澄明

1. はじめに

地方都市において観光活性化を図るためには、観光客の増加だけではその目的が達せられないことがわかっている。すなわち、観光客におけるリピーターの割合を高めることや、滞在時間を長くすることが、その成否に大きく関係していると考えられ、加えて地域住民と観光客とのコミュニケーション醸成の可否についても、観光活性化に影響している¹⁾と考えられている。

そこで数年来、岐阜県高山市において、観光活性化に向けての課題を探るための調査・研究を進めてきた。とくに、平成 18 年度に観光客と地元事業者の双方に対する調査を実施した結果、観光客の交通手段が観光活性化に少なからず影響していることがわかった^{2) 3)}。このことから、自動車利用の観光客に着目した調査を実施して、今後の観光活性化に向けた自動車利用の実態を明らかにするものである。

2. 調査の方法と内容

平成 19 年 9 月 21 日（金）および 22 日（土）の二日間、高山市の伝統的建造物群保存地区の三町およびその周辺の駐車場において、入庫・出庫時の他府県ナンバーの自動車の運転手を被験者として、調査を実施した。調査の方法はアンケート調査票を手渡しで配布し、回収は郵送で行った。配布票数は 400 票で、有効回収数は 183 票（有効回収率 47.5%）であった。

3. 調査結果

(1) 被験者の属性と旅行形態

被験者、すなわち運転者の性別・年齢構成を表したものが表 1 である。運転者しているのは、男性の 30 歳代から 60 歳代で全体のほぼ 7 割を占めており、とくに 50 歳代の男性が全体の 3 割を占めている。この理由としては、図 1 に示す旅行グループ形態が、家族旅行および夫婦・カップル旅行が 8 割弱であることから推測できよう。

表 1 被験者の性別・年齢構成

年 齢	男性(人)	女性(人)	合 計
10歳代	0(0)	1(0.5%)	1(0.5%)
20歳代	12(6.6%)	8(4.4%)	20(11.0%)
30歳代	26(14.2%)	10(5.5%)	36(19.7%)
40歳代	22(12.1%)	6(3.3%)	28(15.4%)
50歳代	55(30.0%)	5(2.7%)	60(32.7%)
60歳代	23(12.6%)	7(3.8%)	30(16.4%)
70歳以上	7(3.8%)	1(0.5%)	8(4.3%)
合 計	145(79.3%)	38(20.7%)	183(100%)

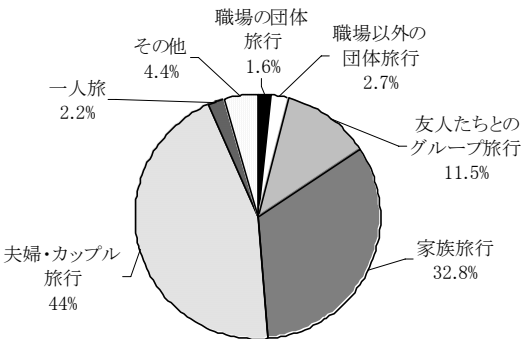


図 1 被験者のグループ形態

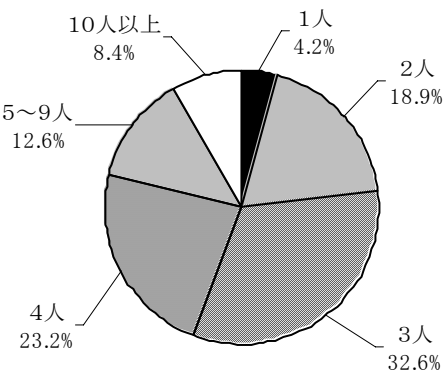


図 2 グループの人数

また、被験者の旅行グループの人数は図 2 に示すとおり、3 人が 33% と一番高率で、次いで 4 人、2 人が続いており、この 3 グループで 4 分の 3 を占めている。

なお、利用自動車の 93% が自家用車で、残りがレンタカーであった。

さらに、被験者の居住地をみると、東海・北陸、関東・甲信越および近畿の割合が高く、これらに岐阜県内を加えると9割を超えている（図－3参照）。このことは、被験者の9割が自家用車を利用していることから、自家用車を利用しやすい比較的近場の地域の割合が高くなっていると考えられる。

（2）観光行動の実態

被験者の観光旅行の全行程は、図－4に示すように一泊二日が最も高く44%を占めており、次いで日帰りが27%、二泊三日が19%と続いている。つまり、全体の7割が一泊二日までの旅行であることがわかる。

さらに、このうち高山での滞在時間をみたものが図－5である。これをみると、半日程度が過半数を占めており、2時間以内とほぼ一日を加えた短時間の高山観光は8割を超えていることから、自動車利用の観光については、そのほとんどが高山での宿泊を伴わない短時間の滞在であることがわかる。

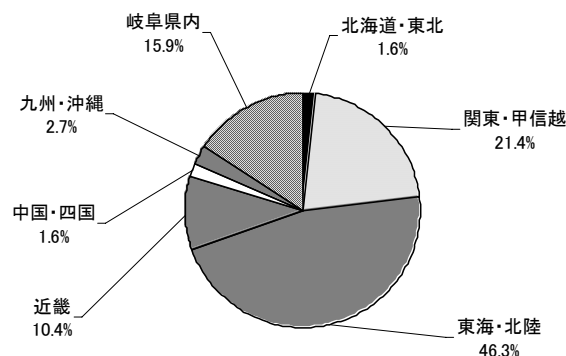
4. まとめ

本研究は高山への観光客のうち、自動車運転手を対象にアンケート調査を行い、観光客の自動車利用の実態を明らかにした。

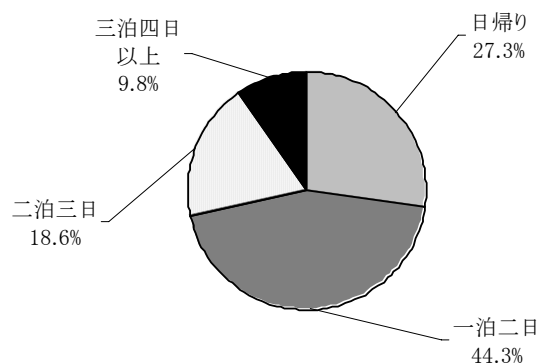
自動車の運転者は、男性の30～60歳代で約7割を占めており、その中でも50歳代が3割を占めている。この理由として、家族旅行や夫婦・カップル旅行が8割を占めていることと整合している。また、旅行グループの人数は、3人組が全体の3分の1を占め、次いで4人、2人と続いている。この3組で4分の3を占めている。また、被験者の居住地は、岐阜県内や東海・北陸が高い割合を占めている。これは、被験者の9割が自家用車を利用していることから、比較的自家用車で旅行しやすい近場が好まれていることがわかる。

観光旅行の行程は、一泊二日が44%と最も高く、日帰りの27%を加えると7割強が一泊二日までの旅行であることがわかる。さらに、高山での滞在時間は半日程度が5割を超えており、2時間以内、ほぼ一日を加えると8割を超えていることから、自動車での観光は、そのほとんどが宿泊を伴わないものであることがわかった。

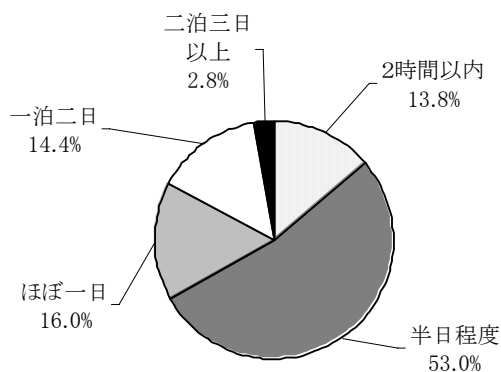
今後は、自動車観光から公共交通機関利用の観光への転換方策を検討する必要がある。



図－3 被験者の居住地



図－4 旅行の全体日程



図－5 高山での滞在時間

【参考文献】

- 1) 和田章仁：飛騨高山における観光振興とホスピタリティに関する考察、HOSPITALITY 第12号、pp. 13～19、2005年
- 2) 和田章仁、池田岳史：飛騨高山における観光活性化の方向性に関する考察—その4—、日本建築学会近畿支部研究報告集、pp. 473～476、2007年
- 3) 和田章仁、片柳澄明、源野武尚：飛騨高山の商業者からみた地域振興と観光活性化に関する考察、土木学会土木計画学研究・講演集、Vol.36,CD-ROM,2007年